

## 厳かで素晴らしい卒業式

72期生の皆さん、卒業おめでとうございます。心配されていた天気も何とかもちこたえ、最後の花道での送り出しの時は晴れ間まで見えました。さすが、72期生の皆さんのパワーですね。卒業証書を受け取る一人ひとりの姿はとても立派でした。また、代表生徒の答辞や「旅立ちの日に」合唱など、どれをとっても素晴らしかったです。堂々と胸を張って巣立っていった190名の皆さん。また、さらに成長した姿で(そうでなくてもいいので…)いつでも、必ず戻ってきてくださいね。



## 学校長式辞より

卒業の日を迎えられた72期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。それぞれに卒業証書を受け取った姿は、とても立派でした。前途洋々たる皆さんのご卒業を心よりお祝いします。

保護者の皆様、お子達のご卒業、誠におめでとうございます。今、こうして成長された姿をご覧になり、これまでのさまざまな記憶が思い出され、感無量のことと存じます。お子達は、ここに中学校3年間の課程を修了され、それぞれの道へと旅立ちます。しかし、まだまだ保護者の方々の支えが必要な多感な年頃です。どうか、これからも温かく見守ってくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて卒業生の皆さん、まずは本日、こうして無事に卒業式を行えるありがたさを噛み締めたいと思います。未曾有の感染症に苦しめられた本年度。今後の歴史にいい意味でも悪い意味でも必ず残っていく時代を共に生きた私たちです。

皆さんと私の出会いは昨年の4月。あっという間の一年間でした。様々な制約がかかる中で、日々の授業はもちろんのこと、学校行事や部活動等々、皆さんの活動はどれをとっても見事なものでした。中でも私が最も感動したことは、「心はいつも濃厚接触」との合言葉のもと、皆さんが様々な機会に必ず確認する“絆”を深めようとする姿でした。

そんな素敵な皆さんへ、さらに“絆”の大切さを示す言葉を2つ贈ります。

まずは、昨日、10年目を迎えた東日本大震災のお話からです。皆さんは「人が一番うれしいと感じるのは、どういう時か知っていますか？」これは、大震災の年のある卒業式での校長先生の問いかけです。「人が一番うれしいと感じるのは、どういう時か」。

その答えは「人を助けた時と、人から助けられた時」です。その年、多大な被害を受けた地域の卒業式は、今日のように卒業生と保護者・教職員でさえ、全員がそろわなかったところが多かった

そうです。当時は皆が大切な人を失った悲しさと、先の見えない不安を抱えての旅立ちだったと思います。しかし、この言葉で多くの人が勇気づけられ、復興へ歩みだしたそうです。

次に2つ目、先人の言葉に「人のために灯りをともせば、自分の前も明るくなる」というものがあります。皆さんと一緒にいった修学旅行、そして、体育大会や文化祭などで、皆さんは友達と良く協力し、助け合い、そして後輩たちの面倒を良くみてくれました。皆さんが友達のことを思い、後輩たちのことを考えながら努力してきた、その行動こそが、実は、皆さんの成長のもとになっているのです。「人のために灯りをともせば、自分の前も明るくなる」。常に人のためにと行動していく人こそ、どんなに、えらい地位の人よりも、どんなにお金持ちの人よりも、誰よりも幸せになれるということを忘れないでください。どうぞ、よろしくお願いします。

さあ、卒業生の皆さん。堂々と胸を張って、そして笑顔で、この花乃井中学校を出発してください。皆さんのこれからの人生が、実り多きものになるよう、皆さんの幸せを祈って、これからも応援していくことを誓って、式辞といたします。

## 卒業式バージョン



《玄関掲示》

後輩からのメッセージが綴られています。



《運動場のサンドアート》

毎回登場、教職員の力作です。  
雨で流れなくてよかったです。



《3年生フロアの「輝樹」》

高校一般選抜の合格と卒業祝いで  
いっぱいになっています。

《部活動の後輩からメッセージ》

CLUB 新聞に部活動の各部長からの感謝のメッセージが掲示されています。  
72期生の3年間の活躍が見て取れます。大したものですね。

《祝電（お世話になった先生からも）》

